

式 辞

柔らかな春の光が降り注ぎ、この織部の地にもまた、新しい春が巡ってまいりました。本日、令和五年度、島根県立大東高等学校入学式を挙げていきますことをたいへん嬉しく思います。本校を代表し、深く感謝申し上げます。

今日の入学式にあたり、八雲会会長 土江博昭 様、部活動後援会会長 高橋敬二 様、PTA会長 野々村達志 様 を来賓としてお迎えし、新入生の前途を祝していただけますことに心より御礼申し上げます。

先ほど入学を許可しました 普通科六十八名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本校の在校生、教職員一同、皆さんを心から歓迎いたします。

ご家族の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。これまでお子様を育ててこられました皆様にとって、本日のお子様の晴れ姿に感慨も一入のことと思います。私ども大東高校教職員は、課せられた責任の重さを感じながら、気持ちを引き締め、お子様の大いなる成長を目指して教育活動に取り組んでまいります。どうか、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、本校は、大正八年、大原郡立農業学校として開校以来、百年以上の歴史の中で幾多の変遷を経ながら発展してきた歴史と伝統のある学校です。新入生の皆さんには、これまでに築かれてきた穏やかで節度ある校風をしっかりと受け継ぎ、さらに発展させるよう奮闘していただきたいと思っております。

大東高校は「誠実・勤勉・高邁」の校訓のもと、「知・徳・体」の調和のとれた人間の育成を教育の目標としていますが、三年間の教育活動を通して次の三つのことを大事にして力をつけることを目指しています。

一つ目は「つながること」、二つ目は「つなげること」、そして三つ目は「つむぐこと」です。

「つながること」とはたくさんの人と出会い、たくさんの経験をし、そのつながりを大切にすることです。「つなげること」とは出会った人や出来事の意味を自分の頭と心で考え、しっかりと自分自身とつなげるということです。そして、「つむぐこと」とはそうにして学んだ知識や経験を紡いで自分自身の世界を広げていくということです。

今日は、皆さんが三年間の高校生活を通して自分の世界を大きく広げ、希望を持って未来に向かうことができるように、心に留めておいてほしいことを二つだけお話したいと思います。

建築家の青木淳氏によれば、建築は大きく二つに分けられるのだそうです。そして、その二つは「原っぱ」と「遊園地」に喩えられるといいます。青木氏はその著書の中で「遊園地」は利用者にとっていたれりつくせりの環境ではあるが、はじめに想定された楽しみ以上のものを得ることはできない。一方、「原っぱ」の楽しみは、そこに集まってきた人たちによって編み出され、自分たちで遊びやルールを決めていく。「原っぱ」にはそこで何かを創り上げていく楽しみが無限にある」と著わしています。

生徒の主体的な活動により「つながること」「つなげること」「つむぐこと」を校是とする本校の教育活動は、決して「遊園地」ではなく、「原っぱ」に喩えられるものであらうと思っております。自らを律し、主体的に学び、意欲をもってことにあたり、他と協働することを果たせたとき、大東高校は限りなく可能性を秘めた場所として機能します。そして学校とは、「楽しいところ」ではなく、自らが考え、創造することによって「楽しむところ」であるとも言えます。

そして、もう一つは「志」を持つこと。自分の「志」を定め、その実現に向けて精一杯努力することを皆さんに求めます。「志」とは、単に「こうなりたい」とか「こうなったらいいな」と思う「夢」ではなく、「こうしたい」と思って実現に向けて行動する気持ちです。「志」があれば、困難であると思われることにも、あえて挑戦することによって現実のものにすることもできるかもしれません。心に決めた目的や目標がしっかりとあれば、自然と気力も湧いてきて、実現に繋げることができるのです。

大東高校は、生徒の可能性を開き、チャレンジを支えます。そして、自らと地域や社会の未来を切り拓く心豊かな人材の育成を目指し、生徒、教職員、地域が一丸となって教育活動に取り組みます。本日からの本校で過ごす三年間は、今後の皆さんの人生において大変大きな意味をもつ時期であることは言うまでもありません。本校には皆さんが「志」を持って学ぼうとすれば、その気持ちに充分応えられる機会が準備され、また皆さんを大きくサポートしてくれる先生方が揃っています。どうか、この大東高校という場を十分に活かし、充実した日々を過ごしてください。

新入生の六十八名の皆さんの成長と、大いなる「志」の実現のために、教職員が一丸となって尽力することをここにお誓い申し上げます、式辞といたします。

令和五年四月十一日

島根県立大東高等学校 校長 陶 山 裕 史